

第2次薩摩川内市水道ビジョン 概要版

薩摩川内市の水道事業においては、効率的な事業経営のもとで将来にわたって安全で安心な水の供給確保と災害に強い水道を構築するため、平成 20 年3月に「薩摩川内市水道ビジョン」を策定し、平成 28 年度までの実施方針を掲げて、各種の課題解決に向けた事業推進に鋭意取り組んできたところですが、いまだ十分には達成できていない項目もあります。

また、前回の策定から 14 年もの歳月が経過し、社会情勢の変化と共に、人口減少や水道施設の老朽化の進行、上水道と簡易水道の事業統合、国土強靱化に向けた取り組みなど、水道事業を取り巻く環境が大きく変化しています。

このような状況を踏まえ、今後の本市水道事業が目指すべき未来とその羅針盤として、「薩摩川内市水道ビジョン」の見直しを行いました。

本水道ビジョンでは、前回水道ビジョンの基本理念である「**自然の恵み 未来に活かす薩摩川内のみず**」を踏襲し、

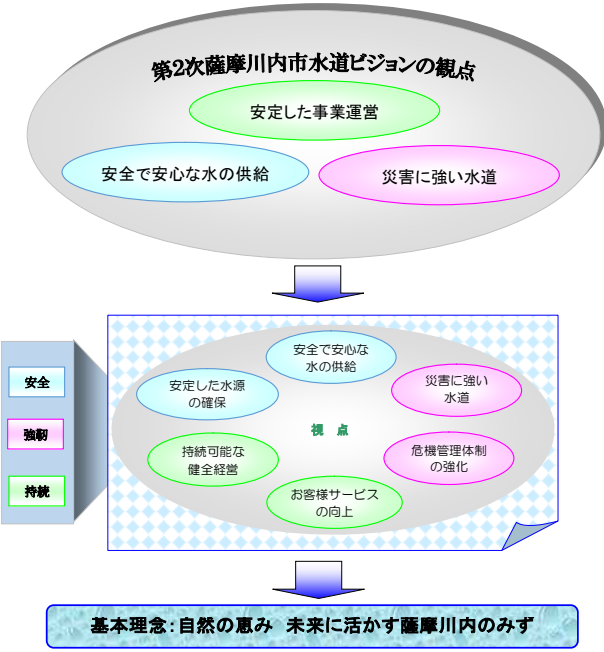
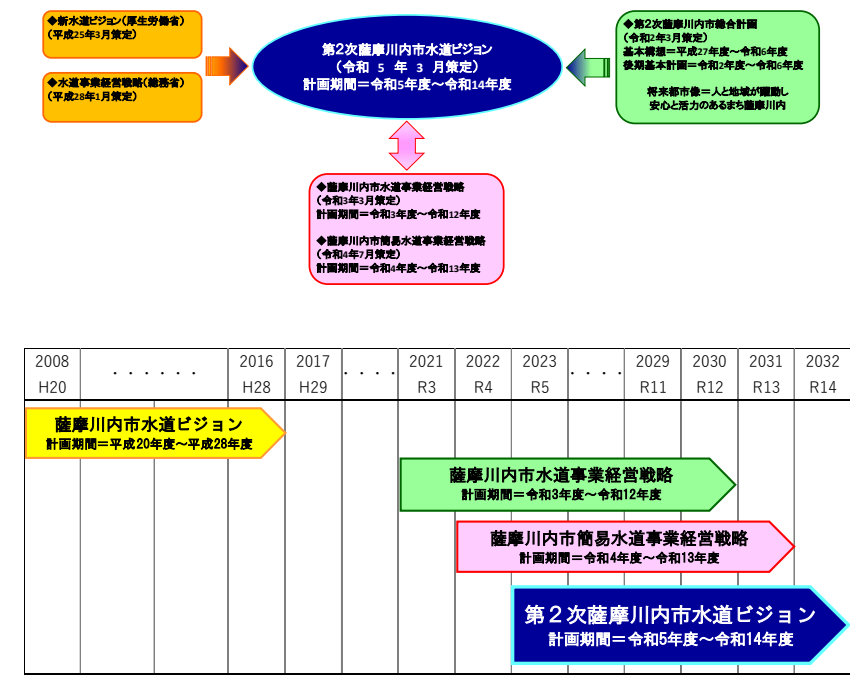
- 安全：「安全で安心な水の供給」
- 強靱：「災害に強い水道」
- 持続：「安定した事業運営」

の3つの観点の実現に向けて、本市の水道事業が抱えている課題と今後取り組むべき具体的施策の方向性を取りまとめています

本水道ビジョンは、我が国の水道行政の方向性を示した新水道ビジョンや上位計画である「第 2 次薩摩川内市総合計画」と整合を図るとともに、令和2年度策定の「薩摩川内市水道事業経営戦略」、令和4年度策定の「薩摩川内市簡易水道事業経営戦略」の事業内容、投資財政計画を踏襲し、水道事業が直面する諸課題への対応等について示した基本構想です。

本水道ビジョンの位置付けや計画期間、観点や基本理念の概要を、下図に示します。

また、本市の水道事業の現状や課題、将来の水道事業環境の見直しなどを踏まえ、今後取り組むべき具体的な施策内容を整理しました。その主要施策の一覧を、右表に示します。



◆具体的な施策内容の一覧

	主要施策	具体的な取組内容	進捗状況			
			実績 R3	中期 R9	目標 R14	コメント
1・安全	1-1 水質管理体制の強化	・水質管理システムの構築と水質管理体制の強化 ・水質汚染事故対応マニュアルの策定	△	△	○	・丸山浄水場以外でもバイオアッセイ導入や水質汚染事故対応マニュアル策定を図る。
	1-2 水道施設の保守・点検	・運転管理マニュアルの策定 ・維持管理マニュアルの策定	△	△	○	・丸山浄水場以外でも運転管理マニュアルを、全施設で維持管理マニュアルを策定する。
	1-3 浄水処理方法の調査・研究	・クリプト対策 ・浄水処理方法の調査・研究	△	○	○	・水質管理体制の強化を図る。
	1-4 水道施設の計画的な整備と更新	・老朽管の更新 ・基幹施設(浄水場・配水池)の更新・増強	△	△	△	上水道＝H27策定の水道施設事業計画やR2策定の経営戦略に基づき、H28から7.5億円/年の建設改良費にて管路更新(耐震化)や施設整備(更新)を実施中。 簡易水道＝R4策定の経営戦略にて、R4に1.4億円、R5～R15に1.7億円/年、R16以降2.0億円/年の建設改良費を計上
	1-5 漏水対策	・甌島区域の水源の確保 ・非常時の融通機能の充実(ライフライン多重化) ・災害に備えた施設整備	△	△	○	・甌島区域(長浜⇄芦浜、里⇄上甌)の連絡管整備を進める。 ・川内地域と東郷地域、樋脇地域の一部は接続済み。
	1-6 浸水対策・耐水化対策	・主要施設の安全性確保(浸水対策・耐水化対策) ・災害後の復旧体制の整備 ・応急・復旧の資機材の備蓄	△	△	○	・浸水リスク・浸水想定を検討を踏まえ、防水壁や防水扉の設置、開口部嵩上げ、重要設備の移設等を進める。 ・資機材備蓄は一層の充実を図る。
	1-7 配水区域の再編成	・需給バランスと配水区域の適正化 ・加圧・減圧区域の見直し ・配水池容量や管路口径の検証とダウンサイジングの検討	△	△	○	・入来地域副田水源池・配水池と、東郷地域戸屋川水源池・配水池は廃止予定。 ・施設運用が適正かどうかの検証を踏まえたダウンサイジングの可能性を検討する。
	1-8 水道利用者の給水装置への関与	・給水管の布設替えの推進	×	○	○	・現状は未実施。広報紙やHP等での啓蒙を行う。
	1-9 遠方監視制御設備の充実化	・遠方監視制御設備の整備状況	△	△	○	・樋脇・入来・東郷・祁答院地域や甌島区域の未整備施設を現在整備中
	1-10 配水管網図と給水台帳の情報更新	・配水管網図・給水台帳の情報更新	○	○	○	・不明情報の補完、情報更新を図る。
	1-11 情報公開の充実化	・情報公開の充実化 ・ホームページ等からの意見・相談	△	○	○	・耐震化計画や水安全計画など一層の情報公開と共に、市HP等での意見受付を進める。
	1-12 直結給水の検討	・直結給水拡大の検討	○	○	○	・平坦な市街部を中心に配水管網整備などにより直結給水の更なる拡大を検討する。
2・強靱	2-1 基幹管路の耐震化	・基幹管路・重要給水管路の耐震化	△	△	○	・R3時点の耐震適合率＝34.1% 引き続き耐震化を図る。
	2-2 水道施設の耐震化	・水道施設の耐震化 ・給水拠点の整備	△	△	○	・R4改訂の「水道施設耐震工法指針・解説」の内容と耐震化計画の検討を踏まえた耐震化を進めると共に、主要配水池への緊急遮断弁の設置を進める。
	2-3 配水区域間等の連携強化	・配水区域間のバックアップ機能の強化 ・隣接事業体との相互連携の強化	△	△	○	・川内地域と東郷地域、入来地域内の一部、川内地域内の一部、樋脇地域の一部で連絡管を整備済み。更なる機能強化を図る。 ・隣接事業体との連携推進。
	2-4 災害対策マニュアル等の充実	・災害対策マニュアルの更なる充実と事業継続計画(BCP)の策定 ・他事業体や民間との連携 ・テロ対策など人為的災害の予防	△	○	○	・災害対策マニュアルの更なる充実と各種災害対応も含めたBCP策定を進める。 (災害対策マニュアルは危機管理マニュアルと漏水対策マニュアルのみ整備済み。BCPはコロナとインフルエンザのみ策定) ・他事業体との共同備蓄や民間との連携、地域協力体制づくりを行う。
3・持続	3-1 健全な財務体質の確保	・収益の確保(有収率の向上、収納率の向上、国庫補助金の活用) ・コスト縮減(公共工事の縮減、事業運営の効率化方策) ・資産の活用(未利用資産の有効活用) ・適正な水道料金の設定(必要に応じた水道料金の見直し)	△	○	○	・老朽管路の布設替えや配水池の流量計設置を継続的に推進 ・更なるコスト縮減や未利用資産の有効活用策の検討 ・経営戦略やアセットマネジメントの検討を踏まえた水道料金の見直し
	3-2 事業と業務の効率化	・第三者委託の検討 ・人材育成と技術の継承 ・組織機構の強化	△	△	○	・民間委託の適用拡大の検討 ・ナレッジマネジメント(知識の共有・活用)の推進 ・効率面や利用者サービス面の対応も含めた弾力的な体制づくり
	3-3 水源環境の保全	・水源の監視 ・水源環境の保全	×	△	○	・水安全計画を踏まえた水源周辺環境の監視と保全を進める。
	3-4 省エネルギー対策の推進	・高精度制御機器の導入 ・立地特性を活かした自然流下方式への見直し ・未利用エネルギーの活用の調査	×	△	○	・インバータ等の省エネ機器の導入 ・加圧配水区域の縮小 ・太陽光発電などの未利用エネルギーの活用についての調査・検討
	3-5 浄水汚泥汚泥の活用	・丸山浄水場発生汚泥の活用の検討	×	×	○	・浄水場での発生汚泥を資源として活用
	3-6 環境に配慮した事業運営の推進	・施設更新における環境負荷軽減への取り組み	×	×	○	・発生土の再利用、建設副産物の発生抑制、環境対策型の重機使用等に取り組む。
	3-7 窓口サービスの充実	・窓口サービスの充実	△	○	○	・窓口業務で民間委託を導入済み。スマートフォン決済やインターネットでの手続き等を進める。
	3-8 利用者ニーズへの対応	・ホームページ等に寄せられたご意見の検討	×	○	○	・市HPに寄せられたご意見を検討し、水道サービスの向上を図る。

本水道ビジョンでは、平成 30 年度策定のアセットマネジメント計画、令和 2 年度策定の水道事業経営戦略、および令和 4 年度策定の簡易水道事業経営戦略の3つの計画との整合を図ります。計画期間における実施施策は、「薩摩川内市水道(簡易水道)事業経営戦略」の財政収支計画のとおりとします。また、PDCAサイクルに基づいたフォローアップを5年毎に一度実施し、目標の達成状況の確認と改善策を検討しながら、ビジョンの実施を確実なものにします。